







# 子どもの思いと教師の願いを大切にしたい 学習問題で学びを深める！

3年生 9月実施

単元名 「火災から本牧のまちを守る」  
(全9時間)

〈実践者〉横浜市立本牧小学校 武藤 由希子

## Prologue 学習問題って難しい！

学習問題をつくるのも、追究していくのも難しいですね。でも、学習問題が子どもの切実な問題になっていけば、子どもの意欲も学びの深まりも変わります。子どもが、どんな学習をするのか、何を目指していくのか、が位置づいていないと、学習内容がぼんやりしてしまうことがあります。

学年によって、単元によって、そして、子どもの実態(いちばん大事!)によって学習問題は変わります。一例として、

- ・どうやって学習問題をつくっていくの？
- ・子どもが追究できる学習問題とは？

実践をもとに考えていきましょう。

## Scene 1 単元のゴールの子どもをイメージ！

単元に入る前に、**子どもたちの実態**と**学習指導要領の内容**から、単元の大まかな流れを考えます。特に大切なのは、**単元の最後に子どもたちにどのような力をつけてほしいか、どのような考えをもってほしいかをイメージ**しておきます。イメージがあると、どのような学習問題で追究していくとよいか、単元の途中で子どもたちの思いと学習問題にズレがある時にどのように修正していったらよいかが見やすくなります。

例えば、消防署へ見学に行く場合、下見や打ち合わせをしておき、子どもがどのようなことに疑問を持ちそうか、どのような学習問題だと学習が深まりそうかなど、ある程度想定しておきます。



## 単元終わりの目指す姿に迫るイメージ

〈子どもの実態〉+〈指導要領の内容〉  
→子どもの目指す姿！

### 〈子どもの実態〉

第一単元のまちの学習を通して消防署があることは知っている子どもたち。火災が起きたら消防車が駆けつけてくれることも知っているだろう。でも、どのくらいでどうやって来るのか、どうやって消火するのかなど具体的には知らない。



### 〈学習指導要領の内容〉

「消防署は地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていること」  
「関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていること」



### 〈目指す姿〉

「火災が起きた時に消防士さんがどうやって駆けつけて火を消してくれるのかがわかった。命を守るために1秒でも早く火を消すことができるように連携してすごいな」  
「消防士さんが中心になって、警察や様々な機関、消防団やまちの人と協力して本牧のまちを火災から守ってくれているんだね」  
「火災が起きた時だけでなく、火災が起きないように、予防もしているんだね。」  
「わたしたちにも何かできることはないかな」

### 学びを深める学習問題のポイント①

単元終わりの目指す子どもの姿に迫るために、単元の大まかなイメージを持つ！

## Scene 2 導入で学習問題をつくる！

導入でいかに子どもたちが疑問や関心を持てるかによって、単元の学習の深まりが変わると思います。そのくらい、**単元の導入が大切**です。

この単元の導入では、地図や写真をもとに、次のような疑問が出てきました。



### 〈子どもからの疑問〉

#### [火災・消火について]

- ・ どうやって火を消すの？
- ・ 何分くらいで消防車が来るの？
- ・ どのくらいの時間で消すの？
- ・ 何台の消防車が来るの？
- ・ 高い建物で火事が起きたら、どうやって火を消すの？
- ・ 火事はどの季節、どの時間帯が多いの？



#### [消防署・消防士さんについて]

- ・ 地域の消防署はどの範囲まで行くの？
- ・ 本牧のまちにも他の消防署から消防車が来ることもあるの？
- ・ 消防士さんは、何人くらいいるの？
- ・ 何時から何時まで仕事をしているの？
- ・ 火事が無い時は何をしているの？

#### [火事の予防について]

- ・ 火事が起きないようにするには？
- ・ 学校やまちにはどんなものがあるの？



#### [火事が起きた時の行動]

- ・ 火事が起きたらどうしたらいいの？

「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」「どのくらい」などについて、子どもたちが疑問に思ったことが出てきました。

全員の疑問を調べていくと、限られた時数の中では調べきれません。また、調べるだけでなくじっくり考える時間も大切にしたいです。そのために、学習計画を立てる時に、**クラスの学習問題として追究していきたいことを教師がコーディネートしながら整理**していきます。話し合いながら、単元の大まかな流れを子どもとともに設定しました。

〈単元全体を通して考えていきたいこと〉

### [単元の学習問題]

「だれがどのように本牧のまちを火災から守ってくれているのだろう」

### [大まかな流れ]

- ① 「本牧のまちや学校に消防に関するものは何があって、数はどのくらいあるの？」
- ② 「火事が起きたら誰がどのように来て、どのように火を消すの？」
- ③ 「消防士さんは火事が無い時はどんなお仕事をしているの？」
- ④ 「火事が起きたらどうしたらいいの？」

この時点で、子どもが「学びたい!」「考えたい!」になっているか、子どもの表情や振り返りノートなど、確認しましょう。**導入の大切さはここにあります!**

### 学びを深める学習問題のポイント②

単元の学習問題が子どもの「学びたい!」問題になっているかを見取る。

次に、調べる方法を考えます。

- ・ 自分たちで調査して解決できそうなこと
- ・ 消防署見学を通して解決できそうなこと
- ・ 聞き取り調査をして解決できそうなこと
- ・ インターネットや本で調べて解決できそうなこと

子どもたちが調べたいことと、単元前に教師がイメージしたゴールの子どもの姿に近づける単元になるよう、**子どもたちの思いを聞きながら単元前に考えていた単元の流れを修正**していきました。



はじめはまだわからないことが多いので、「どのように」という学習問題が多いです。この段階では出てこなかったけれど考えてほしいこともあります。それは、単元を進めていく中で、事実をもとに子どもたちと一緒に新たに考えていこうと思います。

### 学びを深める学習問題のポイント③

単元計画を立てる時に、個の疑問をもとにクラスみんなの学習問題に!

### Scene 3 調べて生まれる新たな学習問題！

自分たちで見て調べたり、消防署に見学に行ったりしていく中で学習問題を解決するための情報が集まってきました。その情報を整理しながら、新たな学習問題をつくっていきました。子どもたちの思考は続いていきます。子どもたちの声に耳を傾け、単元の流れを見直していくようにしています。



#### 〈消防署見学後[振り返りの一部]〉

- ・ 防火服を素早く着て出動していた。ポンペやホースなども重たくて驚いた。
- ・ 24時間で交代している。夜中でもすぐに駆けつけられるようにしている。いつ何が起きても大丈夫だ。すごいと思った。
- ・ たくさんの消防車があった。火事だけでなく救助するための装置がついている消防車もあって、かっこいいと思った。
- ・ 消防団員さんの話も聞いた。みんなで火事から守ってくれているんだね。
- ・ 火事が起きた時だけでなく、起きないように予防もしていた。



・ 訓練をする場所で毎日訓練をしている。

振り返りを伝え合う中で、新たに追究したい問題が見えてきました。



- ① 「どういう訓練をしているのかな？」
- ② 「昔はどうやって火を消していたの？」
- ③ 「消防団はどんなことをしているの？」

「どのように」を考えていくことで、「どうして」「何のために」につながっていきそうな学習問題が出てきました。

#### 学びを深める学習問題のポイント④

「どのように」を深めることが、「どうして」「何のために」につながっていく！

### Scene 4 追究することで学習が深まる学習問題を！

単元の中に、「何のために」「どうして」と、その物事の本質に迫ることができそうな学習問題を追究する時間を設定するようにしています。単元によって変わりますが、その**事実の奥にある人の思いや物事の奥深さを考えられるように**したいです。

今回の単元では、「どういう訓練をしているの？」という学習問題を子どもたちが自分で調べ、考えていきました。消防士さんから聞いたこと、本やインターネットを使って調べたことをもとに訓練の種類や大変さをまとめることができました。

また、実際の訓練の映像を見ることで、

#### 〔体力をつける訓練〕



#### 〔救助訓練〕



#### 〔消火訓練〕



#### 〔チームワーク訓練〕



「どうしてこんなに大変な訓練をするの？」という思いを持っていきました。



そこで、「どうして消防士さんは、こんなに大変な訓練をするの？」という学習問題を子どもとつくり上げました。

みんなでこれまで調べてきたことや、消防士さんの、「**訓練は本当の災害のように、本当の災害は訓練のように行います。**」という言葉をもとに、考えていきました。



子どもたちが、消防士さんへの思いに寄り添って考えていることが伝わってくる発言が続きます。

「命にかかわる仕事。雨でも夜でも暑くても、いつでも出動できるようにしているんだと思う」「いろいろなたくさんの訓練をして、何が起ころんでも対応できるようにしているんだと思う」「一歩間違えると自分の命にもかかわる。人の命を守るために、日頃の訓練が大切なんだと思う」



次に単元最後の振り返りのノートです。

- ・ 訓練を真剣に全力でやることで、実際の火事や救助の時にもあせらず落ち着いて行動することができるんだと思う。
- ・ わたしたちやみんなを守るために、きっと今後も訓練や出動してくれている。感謝したいな。

Scene 1の「単元のゴールの子どもをイメージ」するで描いたような、消防士へのすごさ、まちを守ってくれていることの感謝、などの姿が現れています。

改めて、学ぶ姿をイメージすることの大切さを感じます。その姿に迫るためには、子どもの声に耳を傾けて、事実を丁寧に見て考えることで、学習問題が成立するのです。

#### 学びを深める学習問題のポイント⑤

事実の奥にあることをみんなで考えていこう！それが深まった学習問題となる！

### Epilogue 学びを次の単元へ～さらに広がる主体性の輪～

さらに学習は進み、最後にまちの一員として自分たちにできることを考えました。

次の単元で、「事故や事件から本牧のまちを守る」を学んだ時にも、「電話が司令センターにつながってそこからあちこちに連絡がいくようになっていたから、事故や事件の時も同じなんじゃないかな」「消防士さんと同じようにまちのみんなのことを考えてくれているんじゃないかな」など、消防の単元で学んだことが活かされていきました。



119



子どもの学びは、その単元で終わりではありません。次の単元、次の学年、ほかの教科や領域、日常生活に生かすことができるようにしたいです。

そのためにも、学習問題を大切にしたい学びを積み重ねて、子どもたちの「学びたい！」がいつでも見られる……。教師として、いつまでも追い求めていきたいことです。

#### 学びを深める学習問題のポイント⑥

調べて情報を整理した後、追究することでさらに学習が深まりそうな学習問題を！



子どもの思いを大切にして、  
学習が深まる  
学習問題をつくる！

# 「愛のチョークで引田が斬る！」

(横浜市立中山小学校 引田 雄士)



今回は、学習問題を子どもと一緒に考えてつくり上げていくことについて、武藤氏から実践を通して伝えていただいた！これから学習問題を子どもと一緒に考える場面でもどんどん生かせそうじゃ！しか～し、皆の衆がこんなに悩んでいる学習問題をそんなにうまく子どもとつくれるわけがなからう……。武藤氏も山ほど失敗したに違いない！！そこをどんどん斬っていくぞい！「愛のチョーク、見参！」

## 学習問題を子どもと一緒につくった時にうまくいかなかったことはなんじゃ？



### ●クラスの共通の問題にするのが難しい……。

この学習問題を追究しても、事実が出てこないのが予想で終わってしまうな、深まりがないと思うことがありました。学習指導要領と子どもの思いのバランスが難しかったです。

また、子どもたち一人ひとりが興味を持つこと、調べたいことが異なるため、クラスみんなの共通の学習問題にしていく難しさがありました。



やはり、武藤氏でもうまくいかない時があったのじゃな！安心したぞい！クラス共通の学習問題にするのが難しい！これは、皆の衆がとても悩まれている問題じゃ！わしも、学習問題で何度も失敗したのを思い出すのお～。

わしが想定した次時の学習問題があった。学習を進める中で、子どもがわしの考えた学習問題に近い言葉を発言した時に、「よきた！もらった！」と思い、その子どもの発言を取り上げてしまったのじゃ！わしは満足して、子どもと吟味することもなく、次時の学習問題を立てたのじゃ！しかし、子どもに次時の考えを書かせた時に子どものノートを見たら、自分の考えをまったく書けていなかった……。子どもにとって切実な学習問題になっていなかったのじゃ！もっと、じっくりと子どもと学習問題と向き合っておけば……。

昔を思い出すと山ほど失敗が出てくるのお～。なつかしいのお～。

あともう一つ……。3年生からいきなり子どもと一緒に学習問題などつくれるわけがない！そこは、武藤氏どうなんじゃ！！

## 社会科が始まる3年生から子どもと一緒に学習問題をつくれるのか？

### ●中学年からの積み上げが大切！

中学年の中でも特に3年生では、初めての社会科ということもあるので、子どもたちだけで単元の見通しを持って学習問題をつくるのは難しいかと思えます。まずは、子どもたちの思いを聞きながら教師が学習計画を立てていくことで、3年生の途中から子どもたちも見通しを持って計画できるようになっていくと思えます。その積み重ねがあると、高学年になってから流れがわかって、自分たちでどんどん計画を立てられるようになっていきます。そして、教師主導ではなく、子どもが主体的に学習問題をつくっていけるようになっていくのではないかと思います。



そうかそうか、3年生からいきなり子どもと一緒に作るのではなく、思いを聞きながら教師がつくっていくのじゃな。そして、中学年で積み上げたものが高学年につながっていくことが大切ということが伝わってくるぞい！高学年になると、難しい言葉や内容の学習問題があるな！わしもそんな学習問題を多く考えたなあ～。そんな問題の時には、一部の子どもしか発言できないことが多かったのお～。できるだけわかりやすい言葉を子どもと一緒に考えることが大切じゃ！今回も斬ることができなかった！（わしがたくさん斬られた……）無念！それでは御免！

MASAYA presents

Masaya  
僕も、  
Masaya  
僕以外も。

社会科の学習をより良くしたいと思っているのは、僕も僕以外のみなさんもきっと持っている気持ちだと思います。今回は、学習問題について、一緒に考えていきましょう。

横浜市立港南台第三小学校 山本 雅也



今回のテーマ

## 学習問題について

どうして社会科の学習では、学習問題が大切なのか？

学習問題は、社会的事象に対する子どもたち一人ひとりの問い(問題意識)をもとに、クラスみんなで追究していく問いとして設定したものです。

子どもと一緒に学習問題を設定することで、追究意欲を高め、主体的に学習に取り組むことができます。そのため、社会科の学習において、学習問題はとても重要なものとなっています。

どんな学習問題をつくれればいいの？

学習問題を学習過程に合わせて、タイプ①～④に分類したので、4年生の「ごみ」の単元をもとに、どんな学習問題ができるか考えてみましょう。



### 学習問題タイプ①

単元の見通しを持ち学習計画を立てるための学習問題

・まちをきれいにするために、だれがどのようにごみを処理しているのだろう。



### 学習問題タイプ②

方法や仕組み、工夫や努力などを追究する「どのように」学習問題

・ごみはだれがどのように集めているのだろう。  
・集められたごみはどのように処理されているのだろう。  
・分別して集めたごみはどのように再利用しているのだろう。

### 学習問題タイプ③

社会的事象の意味や意義などにつながる「なぜ」「どうして」学習問題

・集積場所にごみが残ってしまうのに、どうして分別シールを貼っていくのだろう。



### 学習問題タイプ④

これからの社会のあり方を考えたり、選択・判断したりする「どうしたら」学習問題

・ごみの量を減らすために、わたしたちはどうしたらいいのだろう。



★「いつ」や「どこで」のような問いは、答えが一つに決まってしまうことがあり、「社会的な見方・考え方」を働かせることが難しい学習問題になってしまいます。  
★今号の武藤先生の実践のように、「どのように」の学習問題を追究していく中で、「どうして」の疑問が出てきたり、新たに「どのように」の問いが設定されたりすることがあります。子どもたちとの追究過程や思考の流れを大切に授業を進めていきましょう。

どのように学習問題をつくれればいいの？

一人ひとりの問いや問題意識を大切にして、子どもたちと一緒に学習問題をつくってみましょう。

一方で、「いつ」や「どこで」などの一人ひとりの個別な問いを追究できる時間も確保するようにしています。「〇〇について調べてきたよ」や「〇〇について聞いてきたよ」と一人ひとりの問いを追究する中で、新たな問いが見つかることもあります。



横浜市立日枝小学校 石川 和之

## 叫び1

「『この子はこんなことを言いそうだ』と見取っていたけど、こうきたか!」を **楽しもう!!**

「本気のハテナ(問い)」を自分の手でつかんだ子どもは、教師の見取りの範疇を超えていきます。直前の授業の後半でその子が書いたふり返りに目を通し、「なるほど、この子はこんなことを書いているんだな。おそらく次の授業ではこんなことを言いそうだ」と見取っていたとしても、その日の夕食での話題や土日の考え事などを通して考えを深めてきた子どもは、その通りのことを言うとは限りません。しかし、そこが楽しいんです。ワクワクします。ぜひ多くの先生方と、そんなゆとりを持ちながら授業に臨める感動を分かち合いたいと思います。

私もまだその余裕がなかった12年目の社会科授業での話です。同じく6年生、待機児童について考えを深め合う授業でのことです。当時、横浜市で待機児童をゼロにできたというニュースが全国紙で取り上げられていました。そこで、横浜市会の議事録を調べて、「横浜市の政治は市民の声をどのように実現していったのか」という学習問題について、その是非を話し合っていました。元気いっぱいでも少しやんちゃなところもあるAさんは、その単元での学びに入ると驚くほど本気で学んでいました。直前の授業のふり返りでも、「本当にここまでして待機児童をゼロにする必要はあったのか疑問です」と根拠とともに書いてありました。私は「おそらく次の授業でもこの発言をし、友だちの考えを深めるきっかけをつくってくれるだろう」と期待していました。

そして次の授業中。前半からAさんは、友だちの発言を聞きつつも、腕組みをしながら考え込んでいます。いつもはすぐに挙手をするAさんですが、なかなかその日は手を挙げません。私が指名すると、「まだいいです」と言って、肝心なことは何も話しません。そのやりとりを3回は続けたでしょうか……。そしてついに発言した次の言葉を、私は今でも忘れられません。

**「みんな、先生、そもそも『待機児童』って言葉、どうしてあるんですか?」**

その後の沈黙の5分間。その発言を聞いた友だちも私も、頭の中が一度真っ白になり、ぐるぐる、ぐ



るぐる、思考せざるを得ませんでした。彼なりの「本気のハテナ(問い)」にクラス全体が引き込まれた瞬間でした。

## 叫び2

(改めて)子どもって**スゴイ!**

子どもってスゴイんです。本当にスゴイ。まさか「『待機児童』という言葉こそ、なぜ生まれたのか」、そんな視点で物事を考えているなんて思いもありませんでした。Aさんのご両親は共働きで、Aさん自身、小さい頃から保育園に通っていて、「できたら可愛い子どもの時くらいもっと親と一緒にいたかったのに……」という思いがあったようでした。



「その子の生活経験に裏づけられたその子自身の考え」を表出できる場の大切さ。普段はやんちゃな子ども、真剣に発言し、さらにそれを真剣に聞いてくれる友だちの存在。つまり、心理的安全性が担保された空間。安定した学級経営が基本にあり、そのうえでこそ可能になる「考え続けたい授業」であることに、間違いはありません。

子どものすごさに感動する私たち教師の姿勢と、真剣に友だちの話に耳を傾ける教室の雰囲気。社会

科の授業に限りませんが、それでも生活経験に裏づけられた考えを表出しやすい社会科だからこそ、大事になってくる視点のように感じます。

## 叫び3

やっぱり「**子どもに学びをゆだねちゃえ!**」のスタンスって**大事!**

単元の導入で示す資料の提示以降は、できる限り子どもに学びをゆだねます。子どもが見出す学習問題やその予想、計画、新たな問いなど、その決定や選択は子ども自身が行います。この「トライ&エラー」の繰り返しの中で、私たち教師による「子どもの見取り」の精度が上がっていくのだと思います。

しかし、どれだけその精度が上がっても、いわゆる「教師の見取りが裏切られる瞬間をどれだけ楽しめるか」こそが重要で、それはやはり「子どもに学びをゆだねる」という視点がないと不可能です。さあ、とことん「子どもの思考」に寄り添って、学びを楽しんでいきましょう。



Let's enjoy

## 今回の叫び 考え続けたい学びを創る!

45分の授業が終わっても黒板の前に自主的に集まる子ども、夕食を食べながら今日の授業のことを話したくなる子ども、これから目指す学びの姿はコレだ!



この写真は、6年生の政治学習にて介護保険制度について学ぶ中で、授業が終わった後も黒板に貼られたグラフの前に自分から集まり、「あーじゃない、こーじゃない……」と議論を続けている子どもの様子です。何を話しているのか詳しく聞いてみると、「やっぱりこのグラフのここからの下がり具合、変じゃない? 本当にこれが理由なのかなあ」そんなことを熱く話していました。

私たちの仕事は、子ども自身のハテナ(問い)をさらに「本気のハテナ(問い)」にすること、これに尽きると思います。45分の授業が終わっても片づけるところから考え続けようとする子どもの姿や、学校から帰ってもつい授業での学びを思い出して夕食の話題にする子どもの姿。そんな子どもの様子が垣間見えた時の感動といたら言葉にしようがありません。「ブラックどころか、カラフルだしゴールド過ぎる仕事を私たちはさせてもらっている」、そんな感激に包まれるはずです。

## みんなで楽しく学ぼう! 先生たちの勉強の場(今年で8年目)紹介! 社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場(きたまなば)」



参加費  
無料!



遅刻・早退  
OK! 事前  
申し込みも  
不要!

北学場 <連絡先> 大滝 文平  
kitamanaba@gmail.com

横浜市北部(青葉区、都筑区、緑区、港北区)の社会科有志が中心となって発足した、緩やかなお勉強の場です。

発足して8年目になりますが、今では横浜市・市外の初任者をはじめ、経験の浅い先生、中

堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味があれば、ご連絡(メール)をいただくと案内チラシを送らせていただきます。



# YUKIKOの部屋

Check point!



## Q 学習問題にはどのようなものがあるの？

### A

学習問題は、これで完璧！というものがないような気がします。世の中の状況も変わり、子どもたちによっても変わり……となると、前にやってみた学習問題とはズレが生じてしまうからです。過去に実践したのも参考にしつつ、その時々教材研究や子どもの実態を見取り、よりよいものを考えていきたいですね。

学習問題には、単元全体での大きな学習問題もあれば、具体的な事例を取り上げた学習問題もあります。例えば、5年生では、具体的な事例についての学習問題もありますが、日本の国土や産業など、大きな捉えとしての学習問題も出てくるかと思います。そのような学習問題を単元のどこどのように追究していくかによって、子どもたちの意欲や思考の深まりが変わってきます。

また、できる限り単元の中で具体的な人物を取り上げることによって、子どもたちにとって材が身近になり学習も深まります。人の思いや考え方に触れる学習問題を追究することによって、より自分ごとになり、その人や物事の素晴らしさに気づき、社会的事象の意味等に迫っていくことができると思います。「どうしてそこまでしているの!」「今まで当たり前だに思っていたけれど、そこにはたくさんの人の思いや工夫があったんだ!」と、子どもたちが学習問題を追究する中で、新しい発見があったり、感動したりできるようなものを目指していきたいです。



### 次号は特別号です！お楽しみに！

次号Vol.08は**特別企画！「教えて学年・学級開き」**です。どのような準備をして、何を心がけて、どのように初日を迎えるかを、5人の先生方が執筆します。春に向けて、ぜひ楽しみながらお読みください！

(横浜市立本牧小学校 武藤 由希子)



「楽しい学び de クラスをつくる」では、みなさんからの質問をお待ちしています！  
(連絡先: 北学場) kitamanaba@gmail.com



※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。

## 楽しい学び de クラスをつくる (vol.07)

日文教授用資料 [小学校社会]  
令和7年(2025年)1月31日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5  
TEL: 06-6692-1261  
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33766

## 日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5  
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16  
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14  
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵 1-13-18-7F-B  
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1  
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690